

千葉市の川

すいすい

探検マップ

vol.1

みやこがわ

都川

支川都川・坂月川・葭川

優しい流れに会いにゆく

都川のみどころ

縄文人も見た？ いにしえと変わらぬ風景

都川は古代から流れ続けている古い川。上流部には国内屈指の縄文遺跡・加曽利貝塚をはじめとする多くの貝塚があり、古代の人々は川に沿って東京湾まで下り、貝や魚を獲得して暮らしながら、二千年も続くムラをつくったのです。



現在も上流部に残る田園風景(支川都川・平山大橋付近)

流域にはたくさんの湧水も湧いていました。稲作が始まって以来、川とともに千葉の田畑を支え続けてきた澄んだ湧き水は、水の里公園などで今も出会うことができます。



自噴井『太郎』

都川にはドジョウやエビ、コイやアユなど多くの生き物が棲んでいます。岸辺を歩けば、のんびり釣り糸を垂れる太公望に出会えるかもしれません。



『都川と父 Part2 ～釣れてるかい？～』
(撮影: @yumigon0108)
千葉市の川の風景フォトコンテスト応募作品

江戸期からの利水を語る遺構・丹後堰

京葉道路が都川の上を通るあたりに残る丹後堰(たごせき)は、千葉の知られざる名遺構。江戸時代、人々のためにひとりの名主が私財をなげうってつくった、海まで続く長大な用水路の一部です。

都川と支川都川の合流地点で水を溜め、現在の寒川町や稲荷町など淡水が少ない海辺の田んぼに流して、水不足に苦しむ農民を救いました。

改修を重ねながら昭和30年代まで現役だった堰は、今も都川水の里公園の一角に鎮座し、都川の一部となっています。



丹後堰周辺と都川水の里公園

まちの真ん中を流れ、都市を彩る

中流以降の都川は、まちなかを流れる川です。立会橋をすぎると周囲は都会の色が濃くなり、川はビルや住宅の合間を縫いながら千葉大学や県庁のある千葉市内中心部へと向かって、最後は東京湾に注ぎます。いくつもの橋がかかってたくさんの人々の暮らしを支えているのも、その特徴でしょう。

支流・葭川^{よしかわ}の下流域はさらに都会的な雰囲気。頭上にモノレールが走り、高層ビルや賑やかな繁華街に囲まれながら、水のある都市風景を作り出しています。



吾妻橋



『葭川沿いの夜桜』(撮影: @isashira) 千葉市の川の風景フォトコンテスト都川賞受賞作品

都川に暮らす生き物



カワセミ

ヒスイ色の美しい羽をもつ野鳥。11月～3月頃に見られる。



ニホンアカガエル

千葉県では産卵場所である田んぼの減少により生息数が激減している。



ヘイケボタル

6～7月頃に見られる。緩やかな流れの田んぼや水路などに暮らす。



アユ

初夏から秋にかけて遡上し、中流～上流の流れの速いところに暮らす。



テナガエビ (カワエビ)

長いハサミをもつ。水草の影や石の下などにかくれている。



メダカ

田んぼや小川の流れがゆるやかなところに暮らす。



ドジョウ

田んぼや用水路の泥の中に暮らす。雨の日には活発に泳ぎ回る。

都川のあゆみ

1126 (大治 1)	千葉常重一族が千葉（都川下流）に移り住む。 千葉の町が千葉氏の本拠地として栄える。
15 世紀中頃	千葉氏が本拠を本佐倉城に移す。
1613 (慶長 18)	寒川村の布施丹後常長親子が丹後堰用水路を完成させる。 江戸期に入り、千葉の町が下総と江戸を結ぶ舟運の拠点として栄える。
1873 (明治 6)	千葉県誕生。千葉町が県庁所在地となる。
1911 (明治 44)	県庁新築に合わせて都川も改修工事 川幅拡張、流路の直線化、都橋や吾妻橋の架替え等
1921 (大正 10)	千葉市市制施行
1964 (昭和 39)	都川の河川改修が始まる
1973 (昭和 48)	支川都川の河川改修が始まる
1975 (昭和 50)	坂月川の河川改修が始まる
1979 (昭和 54)	丹後堰水利組合が解散



千葉市の川 すいすい探検マップ 都川	
2024年8月	初版発行
発行	千葉市都市局 都市政策課 かまちづくり班
企画	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
制作・編集	合同会社みちくさ／合同会社青空編集事務所
印刷・製本	三陽メディア株式会社



- 凡例
- 川
 - 川(暗渠)
 - 池・調整池
 - サイクリングコース
 - 通路・道
 - 通路・道(未舗装)
 - 高速道路
 - 国道
 - 県道
 - 市道
 - 鉄道(JR)
 - 鉄道(私鉄)
 - 分水界
 - 市区境
 - 旧国境
 - 主な公園・緑地
 - 特別緑地保全地区
 - 橋
 - 貝塚
 - 史跡
 - 文化財
 - 湧水
 - ビューポイント

